



第一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第二十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第三十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第四十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第五十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第六十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第七十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第八十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十一 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十二 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十三 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十四 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十五 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十六 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十七 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十八 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第九十九 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭
 第一百 部金武錢 廣五銀十二 休日曜大祭

刊夕 日十月二十

内科・胃腸科・婦人科
 十二指腸虫病科
 花柳病科・X光線科
松村病院
 平町南町電話一〇七番

内科・外科・耳鼻
 咽喉科・花柳病科
高久病院
 平町南町電話五二三番

内科・外科・花柳病科
 耳鼻咽喉科・婦人科
赤心堂病院
 平町山町電話四七五番

常磐文藝
 光り
 海木短期生
 小さな
 黄金のみ、かきに
 太陽のひかりを
 一杯
 小さな
 黄金の鈴から
 それを見て
 ちろ／＼と笑ひ合ふ
 小さな
 黄金の縫針が
 黒いびろうごに
 かくれたりでたりする
 小さな
 黄金の羽蟲を
 ふと見つけ
 戯れかゝる

美味で評判の
遠藤パン
 (平驛前)

料理御
大村や
 郡役所横通

旅館
大村屋
 平町二丁目
 電話一七五番

是非
 粹で上品な履物を
 御求めの際は
 平町二丁目 電話一五六番
三井履物店

御祝用服装品
 一、子供マント
 一、子洋服
 一、シヨール
 一、オーバコート
 一、贈答用品色々
 などが皆様の
 御出を店内で
 御待して居ります
 四丁目
鶴屋商店

私の哲学
 寄書
 一日記の中より
 岸本哲雄

否定すべきことを肯定し
 肯定すべき事を、否定せね
 ばならぬ私達であることを
 痛感する。
 併し、否定と云ひ、肯定
 と云ひ、その否定なり肯定
 なりが、私達は一体何を標
 準として之れを思ふか。
 考へれば考へる程、私達
 の世界が、余りに狭すぎる
 に驚く。
 私達の生活が如何に不純
 なものであり、如何に醜く

玉の愛兒も
 樂々肥る
 メリーミルク

製造 東京 東
 元 丸 子 約 四 町 平
 社 會 店 丁 目 七 五
 目 丁 目 七 五

石城郡平窪村
鶴仙 松吉屋本店
 電話二四一番

新聞配達人数募集
 希望者来談あれ
 平白銀町 (電話六四番)
河北新報平支局
 支局長 横山 顯

時計見習生入用
 御希望の方は御来店願ひます、退店後には
 すぐ様獨立營業の出来る様毎月貯蓄待
 遇法が付いて居ります。早い方が勝ち
 平町壺丁目
常盤屋時計店

久野製菓販賣部
 東京海上火災保險株式會社平代理店
 富國徴兵保險相互會社平事務取扱所
 店主 久野 柳 助
 福島縣平町一丁目
 電話 一五〇番
 工場 平町長橋町六十一番地

最も恐ろしい魂の憤ふる
 様な、最も大膽なものは、
 虚偽と想像とを基潮として
 組合はされたものであるこ
 とを私は認める。
 生と戦ひ、敗れ、而し
 その泥土の如き惨酷なる束

丸登式株店
 平町田町 電話三三三番
 川添房二郎

株式株買中値
 電話に金融 致し

銘格 拂込 時價	磐城銀行	五〇〇	五三〇
	平銀行	五〇〇	六八〇
	磐越銀行	一一五	一〇五
	磐城銀行	五〇〇	四二〇
	磐城銀行	三〇〇	二八〇
	田村銀行	一一五	一一五
	四倉銀行	一七五	一七五
	農工銀行	二〇〇	二五〇
	同 新	一五〇	一九〇
	百七銀行	五〇〇	五五〇
	同 新	一一五	一六〇
	七七銀行	一一五	九八
	郡山電氣	五〇〇	四三〇
	同 新	二五〇	一九五
	只見川電	一一五	七五
	植田水電	一一五	一五五
	好間水電	一一五	一三〇
	磐城製菓	一一五	六〇
	磐城製菓	二〇〇	二五〇
	平信託	五〇〇	二五〇
	磐城製菓	一一五	一三五
	植田物産	三〇〇	二六〇
	平製氷	二五〇	一八〇
	好間軌道	五〇〇	三〇〇
	入山新	三二五	一七〇
	小田炭礦	二五〇	一〇
	磐城炭礦	五〇〇	四二〇
	同 新	二二五	一八〇
	磐城セメン	五〇〇	六五〇
	同 新	三三〇	四四〇
	平運送	一一五	八〇

何んとなれば、抽象的観
 念は決して直接に、苦難に
 よつて、人を締附ける様
 考へを形成しないから
 何を好んで彼等は喧ぐか
 何を樂しんで彼等は泣くか
 何を求めて彼等は暗黒史を
 抱くか。
 之れが即ち現實の悲哀で
 あり、現代人のある種の惱
 みであることを信する



不景氣は云ふもの 底力ある石城地方

各商店の賣上帳を 検査する營業稅基準調査

何處も同じく不景氣風は吹き廻すと云ふもの石城地方は他地方と較べて一種異味を見せて居るばかりか

物價中

貴せる物もある程であるからお互口には「不景氣で困ります」と云ふもの夫れは黄金の波がダブついた好況時代に比較しての事であつて實際には各商店の賣上高なども思つた程減少して居る譯のものではない、其處で平

稅務署

は來年度の營業稅の下調を以て過般來管内に於ける貨物の輸出入状態を調査中であつたが此程夫れも大體終了したので茲一兩日來更らに平町内に於ける商店の中で本年度の營業狀態が前年に比し甚だしく盛衰の相違なかつたと認められる

一部に

對し賣上帳の検査を開始した、而して是れが所謂基準調査なのであるから此調査が済めば來年度の營業稅額の増減等も大體豫知さるゝと同時に他地方に比較しての景氣が果してどんな状態であるかゞ窺ひ知れる譯である

青年謠曲稽古

平町長橋青年分團にては喜多流

常磐片々

平署が餅米をくれる爲めに「極貧者は居らんか」アーンと調査を始めた

お有難い事で御座ります

これだから貧乏人は止められない

而して御座んす、餅米があつた丈で満足な正月が迎えられる譯でも御座んせん

イヤナニ、だからと云つて外に御無心を申上げる譯じやあないんで……ヘエ

餅米を與ふ

平署内人事相談所にては正月の餅もつけぬ極貧者に對して餅米を給與せんと極貧者を調査して居る由

桑田販賣

石城郡農會が農村救済の一助として共同購入を試みて桑苗の實際價格が市價より

急告

本社專屬印刷工場警陽社が業務を擴張する爲め男女共に活版印刷

募集します

年齢は十四歳以上、廿歳以下、希望者は給料其他「平町鍛冶町警陽社」へ御照會を願ひます

住宅組合

有志が研究中

福島、郡山等は勿論白河、原町にさへ住宅組合があるに拘らず濱街道第一の市街地たる平町には同組合の設立を見るに至らず住宅は依然として拂底を

告げて居る爲め町内有志の一部は是れが實現に關し調査研究中の由であるが某識者の談に依ると住宅組合の資本主である簡易保險局に於ては全人口に對する一割以上の加入を條件とし夫々詮衡の上貸下ぐる内記になつて居ると云ふから現在約

の開催費用に充てんが爲め原價より二三錢高く賣つたので夫れが直接郡農會の遺つた事の如く一般に訛傳され迷惑を蒙つて居ると

年賀狀の 特別取扱 戦闘準備成る

延人員が九百名が

二棟のバラツクに不眠不休、ある平穀物検査支所にては過般同郡第一回の試みとして開催された平窪村俵米品評會が非常な好成绩を収めたので各町村に俵米品評會開催を奨励しつゝあるが出品物審査の要項は左の如くである

開催を奨励

石城郡の産米はその品質の割合に聲價が高まらないのでこれが善後策に腐心しつ



庭家

カキ貝料理

榮養も多く、消化早く美味豊かなカキを和洋食色々に料理されのは今が一番宜

注意込む女賊

縣下を荒し

石城郡上小川地内を九日正午頃廿三四歳位の女徘徊して居たのを鳴原駐在巡查誰何し平署に引致取調べた處田村郡小野新町生れ當時住所不定前科一犯吉田まさのらしい時です

卵の花まぶし カキを軽く煮、煎つた卵の花とまぶし、紅シヨウガを細くしてふりかけた氣のきいたものです、卵花はすり鉢ですりつぶしておき、カキは洗つて水気をきりおき、鍋に水と酒を入れて煮たてた時にカキ貝を入れ、一二回

賭博檢擧

藤原炭礦にて

石城郡警崎村大字藤原大日本炭礦藤原坑坑夫佐藤倉太方座敷にて九日夜同僚三名と花合せ賭博開帳中平署草野巡查に踏み込み逮捕さる

乞食狩り

危険多き爲め

冬期の寒い時にも平町地方は縣下で一番氣候が溫暖である爲め歳末近くなると縣

温泉復活懸念 石城郡湯本温泉は内郷村舊三星炭礦内に湧出する温泉を木管により引用する計劃であつたが警城炭礦の綴坑内湧出と共に舊三星坑内に俄然廿尺の減水を來した爲め三星の温泉が恒久性あるや否やを憂慮され湯本温泉復活は懸念されて居る

不平受付

投書歡迎

馬車の左側宣傳 荷馬車が各々左側宣傳の宣傳札を張り付けた様ですが其實荷馬車自身は右方を平氣で通行して居るのを見受けまます是れでは宣傳の眞の効果が疑問であると思ふ(失笑生)

募集

文藝其他投稿を募集します

平町人事

婚姻

△紺屋町二四 馬目安一氏(三一) 同馬目延(二)